法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

静岡県焼津の鰹漁業における資金調達と資本形成過程 ： ある経営事例についての考察

大崎，晃

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要．社会科学編 / 法政大学教養部紀要．社会科学編
(巻 / Volume)
75
(開始ページ / Start Page)
17
(終了ページ / End Page)
57
(発行年 / Year)
1990-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00004685

Hosei University Repository

静岡県焼津の鰹漁業における資金調達と資本形成過程

——ある経営事例についての考察——

大崎　晃

目次

一　序
二　福一丸船中関係の鰹鮪船
三　福一丸船中の造船資金調達
四　結

一　序

静岡県焼津の鰹漁業を対象に本邦漁業における資本主義の発達について、これまでに筆者は分析作業を続けてきたがおもな報文リストは本誌前々号(一)に示した。焼津の鰹漁業の出資と漁撈には「船中」が単位組織となっており、その形成過程・組織内容・漁業経営との関係などについて筆者はこれまでにもとりあげてきたが、今回はかかる船中の一つである近藤家を船元とする福一丸船中（旧称ナンバン）の今世紀前半における鰹漁船建造時の資金調達方法について、資料を整理したものである。

Hosei University Repository

注

（一）拙稿「静岡県焼津における鰹漁業の出資漁撈組織と同族」法政大学教養部紀要　第六七号　社会科学編　昭和六三年　二五～四四頁。

二　福一丸船中関係の鰹鮪船

福一丸船中が明治三七年から昭和二二年までの間に建造した鰹鮪船は九隻にのぼる（第1表）。その際造船資金の調達は船中を基礎になされたが、明治四一年からは船中と外部の出資法人＝貸付資本である東海遠洋漁業株式会社との共同出資によることとなった。(一) かくして建造された共有船の利益分配法は、総水揚高より市場口銭・漁業組合費・沖乗奨励金を順次控除した残高の一割五分の船徳金と、さらに航海経費を差引いた残高の純収益を乗組漁夫と出資者とが一定比率で分配したうちの出資者配当金（船代）との合計額すなわち船徳金と船代の総和から、漁船修繕費と漁船管理費である船元代を差引いた残額である。(二) この分配金は共同出資方式の場合、出資率に応じて船中と出資法人の間で配分される。この分配金には減価償却費と純益金が含まれ、これが再生産費の基金となる。つぎにさきの福一丸船中が建造した九隻の漁船について、船中側の資金調達お

第1表　福一丸船中関係鰹鮪船（明治37～昭和28）

使用終了年月	進水年月	出資額 東海遠洋漁業KK 金額	持歩	福一丸船中 金額	持歩	造船価	船名
		円		円		円	
不明	明治37	—	—	333		333	太神丸
大正 3. 8	明治41. 7	2,160	5分	2,160	5分	4,320	福一丸
大正 6. 6	大正 2. 3	1,459	5分	1,459	5分	2,919	2福一丸
大正12. 3	大正 4. 4	3,180	5分	3,180	5分	6,360	福一丸
昭和 3. 12	大正10. 4	11,115	5分	11,115	5分	22,300	2福一丸
昭和 8. 7	大正13. 3	30,000	5分	30,000	5分	60,000	1福一丸
昭和18. 12	昭和 4. 3	19,000	5分	19,000	5分	38,000	3福一丸
昭和20. 2	昭和 8. 6	39,000	5分	39,000	5分	78,000	5福一丸
昭和36. 8	昭和22. 8	3,000,000	5分	3,000,000	5分	6,000,000	8福一丸

注）8福一丸の出資法人は昭和漁業ＫＫである。
太神丸の造船価は調達資金額を示す。
各船「連名表」「株主人名簿」「持歩勘定帳」より作成。

Hosei University Repository

よび準備金の積立状況を順を追ってみていこう。

注

(一) 拙　稿「静岡県焼津における鰹漁業の発達と東海遠洋漁業株式会社」法政大学教養部紀要　第五五号　社会科学編　昭和六〇年　二九～五七頁。

(二) 拙　稿「明治大正期の静岡県焼津における鰹漁業経営について」法政大学教養部紀要　第六三号　社会科学編　昭和六二年　六七～一〇六頁。

三　福一丸船中の造船資金調達

福一丸（往時はナンバンと称呼）船中が建造した鰹鮪船のうち、もっとも古い資金調達記録が残っているのは次に示す明治三七年の太神丸のものである。

明治三拾七年　連名表　第拾壱月末(一)

一　今般明治三拾七年第拾壱月拾七日慎鰹船造船に於て船中談合仕故造船仕候処確実也然る処此左に書記上る船中にて三分持ち又清水菊蔵殿弐分持ち近藤半市殿五分持ちと相定め約定也

一　三　人　　増田平兵衛印
一　壱　人　　増田惣吉印
一　四　人　　滑水菊蔵印
一　壱　人　　増田由太郎印
一　弐　人　　西川市太郎印
一　弐　人　　近藤半兵衛印
一　弐　人　　近藤半助印

Hosei University Repository

一壱人　近藤熊吉印
一壱人　滝口辰之助印
一壱人　増田亀右衛門印
一壱人　小林金太郎印
一壱人　山本長蔵印
一三人　鈴木半次郎印
一壱人　泉梅吉印
一壱人　長谷川甚太郎印
一壱人　秋山市太郎印
一壱人　岩本市太郎印
一壱人　鈴木甚金印
一壱人　山本春吉印
一壱人　松村金作印
一壱人　松村竹左衛門印
一壱人　原田鉄吉印
一壱人　鈴木岩吉印
一弐人　山中半六印
一弐人　天野伊左衛門印
一弐人　桜井喜平印
一壱人　原田安之助印
一弐人　近藤半市印
一壱人　田中鉄之助印

Hosei University Repository

一　壱　人　　御　苗　浦太郎印
一　弐　人　　橋　本　定　吉印
一　壱　人　　増　田　久　蔵印
一　壱　人　　長谷川　佐太郎印
以上人名四拾八名也
一　壱　人　　近　藤　吉之助印
以上人名四拾九名也
此以上人名金百円也

この記録によると太神丸の建造にあたり、船元である近藤半一が五分、先代の船元近藤半四郎の姉婿である清水菊蔵が二分、船中船方三四人が三分をそれぞれ持ち、船方三分の出資株数は延四九株であった。そして船中出資分は「以上人名金百円也」とあってこれが三分にあたるところから、この時調達した金額は合計で三三三円になり、船中の一株は二円にあたる。つぎに最初の動力船福一丸の造船資金調達の場合についてみよう。

(二)
右ハ明治四拾一年第五月廿七日ヲ以テ発動機械船建造ニ付協儀シタル処遠洋漁業株式会社ニテ五分近藤半一殿二分五厘船方五拾四名ニテ一分二厘五毛清水三吉殿一分二厘五毛受持トス右惣金額四千三百二十円之見込トス
内会社ニ於テ金弐千百六十円也
近藤半一殿　金一千八拾円也
船方一同　金五百四拾円也　　此内四拾四名ハ金四拾円七十銭藤一伊セノ分ヲ借用
金八拾四円三十銭ヲ三吉ヨリ借用ノ見込トス
清水三吉殿　金五百四拾円也
右金額ヲ豫定トス

Hosei University Repository

但シ一人ニ付拾円株トス

三人	増田平兵衛
壱人	増田惣吉
三人	清水三吉
壱人	清水藤作
壱人	増田芳太郎
壱人	西川市太郎
壱人	近藤金太郎
壱人	近藤熊吉
弐人	滝口辰之助
壱人	増田由太郎
壱人	小林金太郎
壱人	山本長蔵
三人	近藤半兵衛
弐人	鈴木半右衛門
壱人	鈴木金右衛門
壱人	泉梅吉
壱人	長谷川甚太郎
壱人	秋山市太郎
壱人	岩本梅吉
壱人	鈴木甚金
弐人	山本春吉

Hosei University Repository

壱人　松村金作
弐人　松村竹右衛門
壱人　鈴木岩吉
三人　天野伊左衛門
弐人　桜井喜平
壱人　原田安之助
壱人　増田鉄吉
壱人　近藤長太郎
弐人　田中鉄之助
壱人　内田徳太郎
弐人　橋本定吉
壱人　増田久蔵
壱人　長谷川作太郎
壱人　鈴木徳太郎
壱人　舛や文太郎
壱人　山中藤市
壱人　原田清市
壱人　近藤半市

以上五拾四名也

此内四拾四名　前株之分

福一丸の造船費四、三二〇円は半額二、一六〇円を出資法人東海遠洋漁業株式会社が持ち、残り半額は半分一、

Hosei University Repository

○八〇円を船元近藤半一が、残りの半分を清水菊造の子息三吉と船中船方が折半し五四〇円宛を負担した。船中船方の出資者は三九名で五四株、一株は一〇円であった。

ついで大正二年建造の第2福一丸の場合はどうであったか。

大正二年　二号新造決算調(三)

一　金二千九百十九円四銭　　新造ニ付惣入費

内　訳　　内方ノ割

一　金千四百五十九円五十二銭　　舟本持分　三分六厘

一　金五百二十五円四十二銭五厘　　舟方五人組持分　一分四厘

一　金二百四円三十三銭五厘　　三十一人持分　二分五厘

一　金三百六十四円八十八銭　　船方株主持　二分五厘

一　金三百六十四円八十八銭

二号　ハシケ　株主分

壱人　岩吉

壱人　作太郎

壱人　由太郎

壱人　惣吉

三人　三吉

壱人　北金

二人　半四

壱人　久蔵

壱人　梅吉

Hosei University Repository

二人　ちらや　熊吉　壱人
壱人　辰吉　壱人
壱人　甚太郎　壱人
壱人　銀太郎　壱人
壱人　藤作　壱人
壱人　長太郎　壱人
壱人　市右衛門　壱人
壱人　中徳　壱人
壱人　ちら亀　壱人
壱人　甚金　壱人
二人　春吉　二人
二人　中竹　二人
壱人　金作　壱人
二　伊左衛門　二人
壱人　安吉　壱人
三人　伊セ吉　三人
壱人　定吉　壱人
壱人　鉄吉　壱人
壱人　文太郎　壱人
壱人　藤一　壱人
二人半　内

Hosei University Repository

半人　かじ市
半人　福市
半人　小長
半人　小由
半人　小富
二人　与吉
半人　辰吉

此計　五十一名也

第2福一丸は造船費二、九一九円のうち、半額を東海遠洋漁業株式会社が、残りを舟元三分五厘、船方五人で一分五厘、船中船方三一人で二分五厘、残る二分五厘を船方株主全体で持つという複雑な構成になっている。船中船方の分三八名五一株の持主は以上のとおりであった。

では大正四年建造の福一丸の場合に移ろう。同船については船中出資者名簿が残っていないが、船中持歩勘定書帳（**第2表**）によると、福一丸の造船費六、三六〇円は東海遠洋漁業株式会社と船中で半額宛出資している。本船の勘定は明治四一年建造の福一丸の積立金で出発した。その後償却金と剰余金を順調な成績もあってか着実に積立てて、大正一一年には第2福一丸造船費の船中負担分一〇、七一一円を、大正一三年には第1福一丸造船費の船中負担分七、七三五円をそれぞれ残している。

さらに大正一〇年建造の第2福一丸の場合は、造船費二二、三〇〇円を東海遠洋漁業株式会社と船中で折半し、船中負担分をさらに船元と船方で折半している。船元負担分のうちの一〇分の一を久七丸すなわち清水三吉の子息久一が出資している。

大正拾年　二号新造入費(四)

Hosei University Repository

第2表　福一丸船中持歩勘定

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
3,267		3,267	3年度繰越高	大 4.12.
86	3,180		造船費の5分	
92		6	4年度利子	
1,092		1,000	4年度積立の5分	
2,033		941	4年度船徳の5分	
1,533	500		船元渡し分	
1,000	533		船元渡し分	大 5. 1.27
1,070		70	5年度利子	12.31
1,570		500	5年度償却割の5分	12.31
2,146		576	5年度船徳の5分	12.31
1,570	576		船徳割支払	大 6. 1.19
1,680		110	6年度利子	12.31
3,361		1,681	6年度償却割の5分	12.31
4,893		1,532	6年度船徳の5分	12.31
4,293	600			12.31
3,361	932			大 7. 1.26
3,596		235	7年度利子	12.31
4,596		1,000	7年度償却割の5分	12.31
7,259		2,663	7年度船徳の5分	12.31
5,927	1,332		7年度船徳船元渡し	大 8. 1.25
4,596	1,335		船元支払い	1.26
4,562	34		7年度所得税	11.11
4,881		319	8年度利子	12.21
6,381		1,500	8年度準備金の5分	12.31
9,172		2,791	8年度船徳の5分	12.31
7,602	1,570		船徳船元渡し	12.31
7,527	75		8年度所得税	12.31
7,097	430		機械の割	12.31
5,805	1,291		8年度船徳払い	大 9. 1.31
6,230		425	9年度利子	12. 2
6,980		750	9年度準備金の5分	12.31
9,260		2,280	9年度船徳の5分	12.31
8,160	1,100		9年度船徳渡し	12.31
7,999	161		所得税	12.31
6,981	1,018		9年度船徳	大10. 2.11

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
7,469		488	10年度利子	12.31
8,469		1,000	10年度準備金の5分	12.31
10,865		2,396	10年度船徳の5分	12.31
10,781	84		所得税	12.31
10,182	599		見崎外へ払い	12.31
10,711		529	船元持込分	12.31
0	10,711		2号福一丸へ廻す	大11. 1.24
1,000		1,000	準備金	1.24
1,070		70	11年度利子	12. 1
2,570		1,500	11年度準備金の5分	12.31
5,786		3,216	11年度船徳の5分	12.31
2,570	3,216		11年度船徳渡し	大12. 1.24
2,750		180	12年度利子	
4,970		2,200	本船売却の5分	
5,970		1,000	12年度準備金の5分	
8,343		2,373	12年度船徳の5分	
8,081	262		所得税	
10,041		1,960	機械入替の割金	
10,172		131	所得税補助金	
8,735	1,437		船徳払込み	大13. 3. 1
0	8,735		新造1号福一丸へ廻す	5.16

「福一丸持歩勘定書帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

一金弐万二千三百円也

惣船価金

此内訳

一金壱万千百拾五円也　丸東会社持分　五分

一金五千五百七拾五円也　船中持分　二分五厘

一金五千五百七拾五円也　船元持分　二分五厘

内十分ノ一　久七丸

船仲株主人名

二株　金百五十二円八十銭

一株　金七十六円四十銭　鈴木岩吉

一株　金七十六円四十銭　仁藤富吉

一株　金七十六円四十銭　寺尾松吉

一株　金七十六円四十銭　小長谷徳平

一株　金七十六円四十銭　西川鉄平

Hosei University Repository

一株　金七十六円四十銭　長谷川才次郎
一株　金七十六円四十銭　増田三吉
一株　金七十六円四十銭　小林金太郎
一株　金七十六円四十銭　西川市太郎
一株　金七十六円四十銭　泉梅吉
一株　金七十六円四十銭　増田久幸
一株　金七十六円四十銭　岩川幸次郎
一株　金七十六円四十銭　長谷川甚太郎
二株　金百五十二円八十銭　清水久一
一株　金七十六円四十銭　近藤半四
一株　金七十六円四十銭　近藤長太郎
一株　金七十六円四十銭　近藤熊吉
一株　金七十六円四十銭　寺内角蔵
一株　金七十六円四十銭　渡中笹一
一株　金七十六円四十銭　飯嶋政吉
一株　金七十六円四十銭　岩本梅吉
一株　金七十六円四十銭　原田啓太郎
一株　金七十六円四十銭　近藤銀太郎
一株　金七十六円四十銭　山本長太郎
一株　金七十六円四十銭　鈴木金次
一株　金七十六円四十銭　見崎文太郎
一株　金七十六円四十銭　鈴木甚吉

Hosei University Repository

三株　金二百二十九円二十銭　増田二郎
二株　金百五十二円八十銭　松村常吉
二株　金百五十二円八十銭　天野松吉
二株　金百五十二円八十銭　水野藤一
三株　金二百二十九円二十銭　山本福太郎
二株　金百五十二円八十銭　桜井伊勢吉
三株　金二百二十九円二十銭　田中鉄吉
一株　金七十六円四十銭　桜井徳蔵
一株　金七十六円四十銭　鈴木勘次
一株　金七十六円四十銭　見崎幸一
一株　金七十六円四十銭　加藤清一
一株　金七十六円四十銭　北原彦太郎
一株　金七十六円四十銭　巻田利一
一株　金七十六円四十銭　滝口音吉
一株　金七十六円四十銭　近藤半一
一株　金七十六円四十銭　向坂兼吉
一株　金七十六円四十銭　深沢昇平
一株　金七十六円四十銭　船本
一株　金七十六円四十銭　鈴木松吉
一株　金七十六円四十銭　中野平太郎
一株　金七十六円四十銭　鈴木新平
一株　金七十六円四十銭　和田徳太郎

Hosei University Repository

一　株　金七十六円四十銭　橋本政吉
一　株　金七十六円四十銭　向坂寅吉
一　株　金七十六円四十銭　小城音吉
二　株　金百五十二円八十銭　鈴木直吉
一　株　金七十六円四十銭　西川幸吉
一　株　金七十五円四十銭　秋山鉄吉
一　株　金七十五円四十銭　竹下新太郎
一　株　金七十五円四十銭　増田市太郎
一　株　金七十五円四十銭　増田長吉
株主　〆七拾四株
一　株　金七十六円四十銭　近藤辰蔵
一　株　金七十六円四十銭　西川大吉
右決算は改メ　七拾六名
大正十年五月十二日

第2福一丸の船中持歩勘定書帳（**第3表**）で資金操作状況をみると、船元・船方を含む船中負担分の一一、二五九円の大部分を第1福久丸の償却金・余剰金の積立金でまかなっている。その後第2福一丸も償却金・余剰金を積立て、大正一三年の第1福一丸と昭和四年の第3福一丸の新造に際して使用している。

また大正一三年建造の第1福一丸は、当初東海遠洋漁業株式会社四分、船中六分の出資比率であったが、大正一五年にそれぞれ五分宛の出資比率に改められた。

大正拾参年　壱号株主人名簿（五）

Hosei University Repository

第3表　第2福一丸船中持歩勘定

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
△ 11,259	11,259		2号造船価の5分	大10.11.11
△ 547		10,712	1号福一丸勘定より振替	
0		547	船元持込金	
2,000		2,000	償却金の5分	12.24
7,846		5,846	船徳の5分	12.31
4,923	2,923		船徳見崎外へ払い	12.31
2,000	2,923		船徳船元払い	大11. 1.24
2,140		140	11年度利子	12. 1
4,140		2,000	11年度償却の5分	12.31
8,479		4,339	11年度船徳の5分	12.31
4,140	4,339		船徳船元払い	大12. 1.24
4,430		290	12年度利子	
6,430		2,000	12年度償却の5分	
10,142		3,712	12年度船徳の5分	
0	10,142		新造1号福一丸へ廻す	大13. 5.16
266		266	13年度利子	12.31
1,766		1,500	13年度償却の5分	12.31
4,279		2,513	13年度船徳の5分	12.31
4,232	47		所得税	12.31
3,082	1,150			12.31
1,766	1,316		見崎外へ払い	大14. 1.30
1,907		141	14年度利子	
3,307		1,400	14年度償却の5分	
6,129		2,822	14年度船徳の5分	
3,307	2,822		見崎外へ払い	大15. 1.20
2,617	690		船元渡し	8.29
2,858		241	15年度利子	12. 7
3,358		500	15年度償却の5分	12.31
4,445		1,087	15年度船徳の5分	12.31
4,405	40		所得税	12.31
2,905	1,500		船元外渡し	12.31
1,645	1,260		船元渡し	昭2. 1.20
1,785		140	2年度利子	12. 7
2,185		400	2年度償却の5分	12.31
2,797		612	2年度船徳の5分	12.31

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
2,756	41		所得税	12.31
2,406	350		船徳船方払い	12.31
2,056	350		船元渡し	昭 3. 1.31
2,200		144	3年度利子	12. 9
3,975		1,775	本船売却代の5分	12.15
4,475		500	3年度準備金の5分	12.31
6,524		2,049	3年度船徳の5分	12.31
0	6,524		新3号福一丸勘定へ振替	昭 4. 8.27

「第2福一丸持歩勘定帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

大正拾三年五月二十三日

一　金六万千八百五十円六十三銭　　壱号福一丸船価金

此内訳

一　金千八百五十円六十三銭　　修繕費廻り

一　金六万円　　全船価

此内訳

一　金弐万四千円　　丸東会社持分

一　金壱万五千円　　船中持分

一　金壱万五千円　　船本持分

内千五百円久七丸持分

一　金六千円　　船中持分

右金ハ大正十五年度丸東会社ニテ受持船中持分ハ相済

丸東一分持チニテ丸東ト半分宛ノ受持トス

一　金壱万五千円　　持分株主左之通り　九十株

但金百六十六円六十七銭　一株

一株　鈴木岩吉

一株　鈴木伊勢吉

一株　仁藤留吉

一株　小長谷徳平

一株　西川鉄吉

一株　長谷川才次郎

Hosei University Repository

半株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　半株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株　一株

渡仲篁　渡仲笹一　寺内栄　寺内角蔵　近藤友吉　近藤浅蔵　近藤熊吉　近藤辰吉　近藤長太郎　近藤半四郎　近藤半兵衛　清水才吉　清水勝蔵　長谷川松吉　長谷川甚太郎　岩川幸次郎　増田鉱一　泉梅吉　西川市太郎　小林金太郎　増田三郎　増田三吉

Hosei University Repository

一株　飯島政吉
一株　岩本梅吉
一株　原田啓太郎
一株　近藤銀作
一株　山本長太郎
一株　鈴木金次
一株　見崎文太郎
一株　鈴木金作
一株　増田二郎
一株　増田三郎
一株　増田四郎
一株　松村常吉
一株　松村金一
一株　松村亀吉
一株　天野伊勢吉
一株　天野松吉
一株　水野藤一郎
一株　水野熊吉
一株　山本春吉
一株　山本福太郎
一株　山本太市
一株　桜井伊勢吉

Hosei University Repository

一株	桜井兼蔵
一株	田中鉄蔵
一株	田中鉄吉
一株	桜井徳蔵
一株	鈴木勘次
半株	見崎幸一
一株	加藤清一
一株	北原彦太郎
一株	巻田理一
一株	滝口音吉
一株	近藤半一
一株	向坂重吉
一株	深沢昇平
一株	近藤市右衛門
一株	鈴木松吉
半株	清水平太郎
一株	和田徳太郎
一株	橋本政吉
一株	向坂寅吉
一株	山城音吉
一株	鈴木半右衛門
一株	鈴木直吉

Hosei University Repository

一株　秋山鉄吉
一株　竹下新太郎
一株　原田市太郎
一株　増田才吉
一株　松村銀蔵
一株　近藤辰蔵
一株　西川大吉
一株　橋ケ谷直一
一株　八木敏郎
一株　寺尾勘一
一株　西川角吉
一株　鈴木寅吉
一株　田中亀吉
一株　鈴木新平
五株　船中一同
一株　金原茂一

第1福一丸の船中持歩勘定書帳（**第4表**）で資金操作状況をみると、船元・船方を含む船中出資額三〇、〇〇〇円は、第1・第2福一丸会計の積立金からの振替と船元の持込金によってまかなわれている。そして同船もまた積立金を、昭和四年の第3福一丸と昭和八年の第5福一丸の新造船の勘定へ振替えている。

つぎは昭和四年建造の第5福一丸のケースだが、造船費三八、〇〇〇円を東海遠洋漁業株式会社と船中で一九、〇〇〇円宛を分担したが、船中の分担金は船元と船方で折半した。

Hosei University Repository

第4表　第1福一丸船中持歩勘定

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
8,735		8,735	1号福一丸より廻る	大13. 5.16
18,877		10,142	2号福一丸より廻る	5.16
25,577		6,700	船元持込分	5.16
27,388		1,811	機械置分	5.16
30,000		2,612	見崎外持込金	5.30
33,000		3,000	船元持込金	7.31
△ 3,000	36,000		造船費の6分	7.31
0		3,000	13年度償却の6分	
4,192		4,192	13年度船徳の6分	
2,192	2,000		船元へ支払い	
2,017	175		所得税	
0	2,017		見崎外へ払い	大14. 1.30
△ 3,000	3,000		償却金支払い	
△ 2,400		600	船元へ支払い	2.12
0		2,400	船元へ支払い	7.11
3,900		3,900	14年度償却の6分	
11,702		7,802	14年度船徳の6分	
11,501	201		所得税	
10,328	1,173		払込金	
4,578	5,750		立替金	
2,178	2,400		船元払い	大15. 1.17
278	1,900		見崎外へ払い	1.17
2,678		2,400	船元持分払い	
2,000	678		見崎外へ払い	1.20
5,000		3,000	14年度償却の6分	1.25
5,240		240	14年度利子	1.25
4,367	873		伊勢吉外渡し	8.10
4,757		390	15年度利子	12. 7
5,757		1,000	15年度償却の5分	12.30
7,344		1,587	15年度船徳の5分	12.30
7,030	314		15年度所得税	12.31
4,753	2,277		船徳船長渡し	12.31
4,443	310		船徳内渡し	昭 2. 1.20
4,800		357	2年度利子	12. 7
6,050		1,250	2年度償却の5分	12. 7

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
8,326		2,276	2年度船徳の5分	12. 7
8,093	233		所得税	12. 7
6,743	1,350		船元船徳内渡分	12. 7
5,243	1,500		船方支払い	12. 7
5,093	150		船元払い	昭 3. 1.31
5,449		356	3年度利子	12. 9
7,199		1,750	3年度償却の5分	12.31
10,429		3,230	3年度船徳の5分	12.31
0	10,429		3号福一丸へ振替払い	昭 4. 8.27
750		750	4年度償却の5分	12.31
2,250		1,500	4年度船徳の5分	12.31
1,430	820		船中へ貸し	12.31
680	750		船元船徳内渡し	12.31
450	230		船元へ渡し	昭 5. 1.25
382	68		所得税	1.25
432		50	奨励金渡し	1.28
462		30	4年度利子	12.13
1,562		1,100	4年度償却の5分	12.31
3,164		1,602	4年度船徳の5分	12.31
3,095	69		所得税	12.31
2,445	650		船元渡し	12.31
1,630	815		船中渡し	12.31
1,295	335		船元払い	昭 6. 1 25
1,330		35	所得税補助	12.30
1,423		93	6年度利子	12.30
3,273		1,850	6年度償却の5分	12.30
5,223		1,950	6年度船徳の5分	12.30
5,204	19		6年度所得税	12.30
4,754	450		船元渡し	12.30
4,304	450		船中渡し	12.30
4,313		9	所得税補助	昭 7. 3.30
4,614		301	7年度利子	12.13
5,364		750	7年度償却の5分	12.31
6,506		1,142	7年度船徳の5分	12.31
6,473	33		所得税	12.31

Hosei University Repository

（つづき）

年月日	摘要	貸方	借方	差引残高
		円	円	円
昭 8. 2. 9	所得税補助	16		6,489
12.19	本船売却代の5分	4,840		11,329
12.31	8年度償却船徳の5分	1,762		13,091
12.31	所得税		41	13,050
昭10. 2. 7	5号福一丸持歩へ振替		13,050	0

「第1福一丸持歩勘定帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

昭和四年第三月　第三福一丸株主人名簿(六)

一　金三万八千五百円　第三福一丸船価金
　　此内　金五百円　修繕費廻ス
差引　金三万八千円　全船価
　　此内訳
　　一　金壱万九千円也　丸東会社持分
　　一　金九千五百円也　船中持分
　　一　金九千五百円也　船本持分
　　此内十分ノ一　久七丸持分

一　金九千五百円也　但八拾六株四分一株金百拾円

二株　岩本梅吉
一株　原田啓太郎
一株　山村与吉
一株半　近藤銀作
一株　山本長太郎
一株半　鈴木金次
一株　見崎文太郎
一株　鈴木徳次
三株　増田二郎
二株　松村金一
二株　天野松次郎

Hosei University Repository

二株　水野藤一郎
三株　山本福太郎
半株　近藤強一
一株　桜井徳蔵
一株　久保山保吉
一株　鈴木勘次
一株　見崎幸一
一株　西川大吉
一株　橋ヶ谷直一
半株　寺尾勘一
一株　鈴木寅吉
一株　小城音吉
二株　近藤半四郎
二株　近藤長太郎
二株半　近藤熊吉
一株　寺内角蔵
一株　渡仲笹一
一株　飯嶋政吉
二株　鈴木岩吉
一株　仁藤留吉
一株　小長谷徳平
一株　長谷川才治郎

Hosei University Repository

一株半　増田三郎
一株　西川市太郎
一株　泉安太郎
一株　増田鉱一
一株　岩川幸次
一株半　長谷川甚太郎
一株　加藤清作
一株　北原彦太郎
一株　巻田理一
一株　滝山音吉
一株　近藤半一
一株　深沢昇作
一株　近藤市右衛門
一株　鈴木松吉
一株　和田徳太郎
一株　清水熊吉
一株　鈴木新平
一株　橋本政吉
一株　平田寅吉
一株　秋山鉄吉
一株　竹下新作
一株　原田金一

Hosei University Repository

一株	増田才吉
一株	松村銀蔵
一株	近藤辰蔵
二株	鈴木半右衛門
一株	清水勝蔵
一株	清水銀太郎
四株	久七丸
一株	金原茂一
一株	八木敏郎
四株半	船中一同
一株	寺尾松吉

第3福一丸の船中持歩勘定書帳（第5表）で資金操りをみると、造船費の船中負担分は第1・第2福一丸からの振替勘定で大部分を補いながらも、残金がはじめて釣払いになっている。

また第5福一丸は昭和八年に建造されたが、造船価の半額は東海遠洋漁業株式会社が持った。船中側は船元一分五厘、夏船（鰹船）船中七厘、冬船（鯖漁等の漁船）船中五厘、福一丸船中船方二分三厘という構成であった。

昭和八年　第五福一丸船価金調書(七)

一	金四万弐千五百円也	船体船具　金指造船所
一	金弐万七千三百円也	機械一式　新潟鉄工所
一	金四千三百円也	東洋無線電信所
一	金壱千六百五拾円也	機械一台　友野鉄工所

Hosei University Repository

第5表　第3福一丸船中持歩勘定

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
△ 19,250	19,250		新造船価の5分	昭 4. 8.28
△ 8,821		10,429	1号福一丸持歩より振替	8.28
△ 2,297		6,524	2号福一丸持歩より振替	8.28
△ 2,250		47	船元持込	8.28
△ 1,500		750	4年度償却の5分	12.31
△ 324		1,176	4年度船徳の5分	12.31
△ 773	449		所得税	
△ 494		279	船元外より持込金	昭 5. 1.25
△ 465		29	4年度税金補助	1.28
△ 512	47		5年度利子	12.13
788		1,300	5年度償却の5分	12.31
2,756		1,968	5年度船徳の5分	12.31
2,715	41		所得税	
1,865	850		船元渡し	
1,095	770		銀作外へ渡し	
1,115		20	5年度所得税補助	昭 6. 1.25
1,005	110		船元払い	1.25
1,075		70	6年度利子	12.10
2,425		1,350	6年度償却の5分	12.31
3,890		1,465	6年度船徳の5分	12.31
3,861	29		6年度所得税	12.31
3,711	150		船元払い	
2,396	1,315		船中分船元渡し	
2,431		35	船元持込	昭 7. 1.21
2,446		15	6年度所得税補助	3.30
1,681	765		船元渡し	11.10
1,827		146	7年度利子	12.13
2,227		400	7年度償却の5分	12.30
2,732		505	7年度船徳の5分	12.30
2,032	700		現金払い	
2,002	30		所得税	
2,017		15	税金補助	昭 8. 2. 9
1,592	425		東海会社新株払込	6. 2
2,392		800	船元持込	11.30
3,142		750	8年度償却の5分	12.31

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
4,003		861	8年度船徳の5分	12.31
3,943	60		所得税	12.31
4,368		425	払込金	昭 9. 1.23
4,768		400	船元払込	5.30
4,739	29		所得税	10.31
4,796		57	5年度船中分担金	昭10. 2. 8
0	4,796		5号福一丸持歩へ振替	2. 8
1,500		1,500	9年度償却の5分	
3,590		2,090	9年度船徳の5分	
1,860	1,730		船元渡し	2. 8
1,830	30		所得税	11. 1
1,923		93	10年度利子	12.31
2,673		750	10年度償却の5分	12.31
4,139		1,466	10年度船徳の5分	12.31
4,107	32		所得税	12.31
3,757	350		当り差引分	12.31
2,703	1,054			昭11. 1.31
2,762		59	船元持込	1.31
2,640	122		船元払い	10.13
2,584	56		所得税	
2,718		134	11年度利子	12.22
3,968		1,250	11年度償却の5分	12.22
5,455		1,487	11年度船徳の5分	12.22
4,955	500		船元払い	12.22
4,220	735		近藤銀作外へ渡し	12.22
3,468	752		寺内外へ払い	昭12. 2. 4
3,596		128	積立金差引残持込	2. 5
3,758		162	12年度利子	12.13
4,258		500	12年度償却の5分	12.31
4,902		644	12年度船徳の5分	12.31
4,887		15	所得税	
4,271	616		松外へ渡し	昭13. 1.21
4,491		220	13年度利子	12.16
5,841		1,350	13年度償却の5分	12.31
7,382		1,541	13年度船徳の5分	12.31

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
6,382	1,000		分一当たり差引	12.31
6,366	16		所得税	
5,025	1,341		銀作外へ払い	昭14. 1.25
4,825	200		船元払い	1.26
5,841		1,016	船元持込	1.26
5,804	37		所得税	
6,049		245	14年度利子	12.21
7,799		1,750	14年度償却の5分	12.31
9,805		2,006	14年度船徳の5分	12.31
10,197		392	15年度利子	昭15.12.28
12,097		1,900	15年度償却の5分	12.31
14,111		2,014	15年度船徳の5分	12.31
14,091	20		所得税	
14,655		564	16年度利子	昭16.12. 1
7,552	7,103		16年度損失の5分	12. 1
7,832		280	17年度利子	昭17.12.31
9,832		2,000	17年度償却の5分	12.31
23,596		13,764	17年度船徳の5分	12.31
26,396		2,800	船体修繕代の5分	昭18. 6. 4
26,978		582	18年度利子	8.31
27,978		1,000	18年度償却の5分	8.31
30,890		2,912	18年度船徳の5分	8.31
33,390		2,500	17年度償却の特別分	11. 1
32,916	474		所得税	

「第3福一丸持歩勘定書帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

一 金壱千四百三拾五円八拾八銭也　丸東工場　東海遠洋会社

一 金七百二拾二円八銭也　同右

一 金九拾弐円四銭也　未払準備金

通計 金七万八千円也　此内訳左ノ通り

一 金参万九千円也　東海遠洋漁業株式会社受持

一 金参万九千円也　舟方一同持分

一 金百円也

一 株 仁藤留吉

一 同

一 株 小長谷徳平

一 同

一 株 鈴木岩吉

Hosei University Repository

一	同	一株	鈴木伊勢吉
一	同	一株	長谷川才次郎
一	同	一株	西川市太郎
一	金百五拾円	一株半	増田三郎
一	金百円也	一株	泉梅吉
一	同	一株	増田鉱市
一	同	一株	岩川幸次郎
一	金弐百円也	二株	近藤半兵衛
一	同	二株	近藤長太郎
一	金参百円也	三株	近藤熊吉
一	金百円也	一株	寺内角蔵
一	同	一株	渡仲笹一
一	同	一株	飯嶋政吉
一	金弐百円也	二株	岩本梅吉
一	金百円也	一株	山本長太郎
一	同	一株	見崎文太郎
一	同	一株	鈴木金作
一	金参百円也	三株	増田二郎
一	金弐百円也	二株	松村金一
一	同	二株	天野松吉
一	同	二株	水野藤一
一	金参百円也	三株	山本福太郎

Hosei University Repository

一	金弐百円也	二株	金原銀一
一	金百円也	一株	桜井徳蔵
一	同	一株	鈴木勘次
一	金五拾円也	半株	見崎幸一
一	金百円也	一株	長谷川甚太郎
一	同	一株	加藤清作
一	同	一株	北原彦太郎
一	同	一株	巻田理市
一	同	一株	滝口音吉
一	同	一株	近藤半一
一	同	一株	深沢昇作
一	同	一株	鈴木松吉
一	金弐百円也	二株	近藤市右衛門
一	金百円也	一株	和田徳太郎
一	金五拾円也	半株	清水熊吉
一	金百円也	一株	橋本政吉
一	同	一株	平田寅吉
一	同	一株	小城音吉
一	金弐百円也	二株	鈴木半右衛門
一	金百円也	一株	秋山鉄吉
一	同	一株	竹下新太郎
一	同	一株	原田市太郎

Hosei University Repository

一	同	増田才吉
一	同	松村銀蔵
一	同	近藤辰蔵
一	同	西川太吉
一	同	寺尾勘一
一	同	鈴木寅吉
一	同	鈴木新平
一	同	清水勝蔵
一	金壱千五百円也	清水銀太郎
一	金百五拾円也	船中一同
一	金百円也	原田啓太郎
一	同	山村鉄蔵
一	同	鈴木ぎん
一	同	橋ヶ谷直一
一	同	八木敏郎
一	金五拾円也	天野伊佐吉
一	金壱千円也	清水銀太郎
一	金五百円也	渡仲好雄
一	同	巻田才次
一	同	松永栄作
一	同	塩谷徳右衛門
一	金参百円也	斉藤清一

一株	
一株	
一株	
一株	
一株	
一株	
一株	
一株	
拾五株	
一株半	
一株	
一株	
一株	
一株	
一株	
半株	
拾株	
五株	
五株	
五株	
五株	
三株	

Hosei University Repository

一　同　三株　菊地長兵衛
一　金弐百円也　二株　久保山保吉
一　同　二株　岡田龍雄
一　同　二株　鈴木庄太郎
一　金参百円也　三株　天野鹿太郎
一　金百円也　一株　山村鉄蔵
一　金五百円也　五株　亀井文三
一　金参千円　三拾株　金指文吉
一　金壱万弐千円　百二拾株　近藤市右衛門
一　金弐百円也　二株　村松歌
一　同　二株　岡本貞次

一　金四千四百円也
但夏船船中金五拾円宛
一名分一株　計八十八名
夏船惣中ニテ所事ノ事
冬船中一名ニ付百五拾円宛
一株　二十四名分

一　金千参百五拾円也
一　金参千六百円也

合計　金参万九千円也

しかし第5福一丸の船中持歩勘定書帳（**第6表**）によると、本船の場合船中側の資金は当初余裕がなく船元の持込金以外は釣払いで出発し、昭和一〇年の第1・第3福一丸勘定からの振替金の補給まで帳簿上の負債が残った。そして船中と出資法人との最後の共有船第8福一丸が昭和二二年に建造された。出資法人昭和漁業株式会社（東

Hosei University Repository

第6表　第5福一丸船中持歩勘定

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
△ 39,000	39,000		造船価の5分	昭 7.12.11
△ 38,000		1,000	金指造船所払込	12.28
△ 36,000		2,000	船元持込	昭 8. 3.29
△ 34,500		1,500	船元持込	6. 2
△ 32,500		2,000	預り口座より振替	7.25
△ 31,778		722	船元立替金振込	8. 4
△ 29,778		2,000	8年度償却の5分	12.31
△ 27,841		1,937	8年度船徳の5分	12.31
△ 24,841		3,000	金指造船所持込	昭 9. 6.30
△ 22,341		2,500	9年度償却の5分	12.31
△ 18,467		3,935	9年度船徳の5分	12.31
△ 18,467	61		所得税・利子税	
△ 5,417		13,050	1号福一丸持歩より振替	昭10. 2. 7
△ 620		4,797	3号福一丸持歩より振替	2. 8
△ 669	49		10年度利子	12.31
2,581		3,250	10年度償却の5分	12.31
8,225		5,644	10年度船徳の5分	12.31
6,367	1,858		船中渡し分	12.31
6,255	112		所得税	
3,162	3,093		船元渡し	昭11. 1.31
3,944		782	船元持込	1.31
4,139		195	11年度利子	12.22
7,139		3,000	11年度償却の5分	12.31
10,415		3,276	11年度船徳の5分	12.31
9,415	1,000		船元へ渡し	12.31
8,590	825		近藤銀作へ渡し	12.31
8,340	250		所得税	12.31
6,888	1,452		寺内外へ払い	昭12. 2. 4
7,342		454	船元持込	2. 5
7,669		327	12年度利子	12.13
10,669		3,000	12年度償却の5分	12.31
13,803		3,134	12年度船徳の5分	12.31
12,803	1,000		船元内払い	12.31
12,563	240		所得税	
10,670	1,893		松外へ払い	昭13. 1.21

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
11,935		1,265	船元持込	1.22
12,460		525	13年度利子	12.16
16,960		4,500	13年度償却の5分	12.31
22,082		5,122	13年度船徳の5分	12.31
21,282	800		船元へ払い	12.31
21,076	206		所得税・利子税	
15,954	5,122		銀作外へ払い	昭14. 1.25
18,175		2,221	船元持込	1.26
18,936		761	14年度利子	12.21
23,436		4,500	14年度償却の5分	12.31
29,637		6,197	14年度船徳の5分	12.31
28,268	1,365		船徳内払船方払	12.31
27,919	349		所得税・利子税	
25,384	2,535		船元払い	昭15. 1.26
26,339		955	15年度利子	12.26
33,839		7,500	15年度償却の5分	12.31
41,369		7,530	15年度船徳の5分	12.31
40,886	483		所得税・利子税	
32,884	8,002		船元払い	昭16. 2. 6
38,195		5,311	現金持込	3. 7
39,702		1,507	16年度利子	12.31
35,413	4,289		16年度損失の5分	12.31
34,515	898		所得税	
39,447		4,932	傭船料の5分	昭17. 1.25
34,515	4,932		支払い	12.31
35,913		1,398	17年度利子	12.31
38,913		3,000	17年度償却の5分	12.31
57,286		18,373	17年度船徳の5分	12.31
55,602	1,684		所得税	
47,602	8,000		配当金	昭18. 2. 8
47,020	582		漁業組合出資金	5.20
48,177		1,157	18年度利子	8.31
50,177		2,000	18年度償却の5分	8.31
58,340		8,163	18年度船徳の5分	8.31
54,233	4,107		所得税	

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	借方	貸方	摘要	年月日
円	円	円		
51,752	2,481		配当金	昭19. 3.1

「第5福一丸持歩勘定書帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

第7表　第8福一丸船中持歩勘定

差引残高	支払金	預り金	摘要	年月日
円	円	円		
50,000		50,000	出資金（船元船中分）	昭21. 8.31
100,000		50,000	同（同）	9.12
150,000		50,000	同（久七丸他）	11. 5
187,334		37,334	同（船元）	昭22. 4. 8
466,875		279,541	同（同）	12.31
526,997		60,122	同（同）	12.31
638,652		111,655	同（船中）	12.31
771,152		132,500	主機売却分（船元）	12.31
△ 2,228,848	3,000,000		船価600万円の5分	12.31
△ 1,978,848		250,000	新船流用の船具類	昭23. 1.10
△ 2,187,278	208,430		造船勘定利息	6.30
△ 2,029,761		157,517	純船徳の5分	6.30
△ 2,132,285	102,524		利息	12.31
△ 1,670,653		461,632	純船徳の5分	12.31
△ 1,682,077	11,424		24年度事業税	昭24. 12.29
△ 1,683,502	1,425		ボンデン竹代金	12.31
△ 1,783,502	100,000		漁協冷蔵庫資金	12.31
△ 1,946,927	163,425		利息	12.31
△ 1,565,815		381,112	純船徳の5分	12.31
△ 1,696,515	130,700		24年度所得税	昭25. 2. 7
△ 1,528,953		167,562	出資金	3.29
△ 1,540,377	11,424		24年度事業税	4.15
△ 1,272,456		267,921	持込金	4.15
△ 1,273,942	1,486		24年度県税	9.27
△ 1,294,762	20,820		25年度事業税	9.27
△ 1,314,492	19,730		25年度所得税	12.31
△ 1,446,968	132,476		24年度所得税追加	12.31
△ 1,580,480	133,512		利息	12.31

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	支払金	預り金	摘要	年月日
円	円	円		
△ 1,026,651		553,828	持込金	12.31
△ 272,531		754,121	純船徳の5分	12.31
△ 278,425	5,894		25年度県税	昭26. 6.30
△ 291,492	13,067		25年度町民税	6.30
△ 355,371	63,879		固定資産税	8.27
△ 393,571	38,200		25年度所得税	8.27
△ 459,521	65,950		26年度所得税	8.27
△ 457,021		2,500	戦補関係謝礼金	11.13
△ 464,571	7,550		戦没者供養	11.29
△ 485,113	20,542		26年度固定資産税	11.29
△ 550,113	65,000		25年度所得税	11.29
△ 560,293	10,180		25年度利子税	11.29
△ 662,003	101,710		26年度所得税	11.29
837,997		1,500,000	機関代金	12.31
791,537	46,460		26年度固定資産税	12.31
761,397	30,140		26年度市民税	12.31
711,397	50,000		漁協出資金	12.31
650,154	61,243		26年度所得税	12.31
622,301	27,853		主機換装借入利子	12.31
422,301	200,000		方探増船価の5分	12.31
385,304	36,997		利息	12.31
538,971		153,667	船元持込金	12.31
1,508,028		969,057	純船徳の5分	12.31
1,501,422	6,606		入用船元渡し	12.31
1,494,852	6,570		事業税	昭27. 1.21
2,194,852		700,000	機関代入り	1.29
2,994,852		800,000	同上	2.28
2,745,012	249,840		26年度所得税	2.29
345,012	2,400,000		主機換装船価の5分	6.30
351,012		6,000	昭和漁業配当金	7. 1
331,186	19,826		主機関係金利	7.19
282,882	48,304		26年度所得税追加	7.19
245,612	37,270		27年度市民税	8.23
135,792	109,820		27年度所得税	8.23
90,094	45,698		東洋丸進水祝儀他	10.31

Hosei University Repository

（つづき）

差引残高	支払金	預り金	摘要	年月日
円	円	円		
△ 609,906	700,000		機関代返済	10.31
△ 2,109,906	1,500,000		不足勘定へ振替支出	12.16
△ 2,115,706	5,800		汐波丸進水祝儀他	12.28
△ 2,177,176	61,470		27年度固定資産税	12.28
△ 2,184,326	7,150		27年度市民税	12.28
△ 2,294,846	110,520		27年度所得税	12.28
202,707		2,497,553	27年度純船徳の5分他	12.28
△ 597,293	800,000		船徳内金への払出し	昭28. 3. 1
△ 607,693	10,400		27年度事業税	3.18
△ 639,896	32,203		太洋丸進水祝儀他	4.23
△ 953,556	313,660		27年度所得税	4.23
△ 978,596	25,040		27年度固定資産税	8.25
△ 1,109,766	131,170		26・27年度再評価税他	8.25
△ 1,260,214	150,448		財産贈与税	8.25
△ 1,289,814	29,600		27年度所得税追加分	8.25
△ 1,327,314	37,500		27年度市民税	8.25
△ 1,347,114	19,800		雑費	9. 3
△ 1,427,832	80,718		火災保険	10. 1
3,572,168		5,000,000	船元借入金（静銀より）	11. 2
3,501,218	70,950		火災保険料	11. 2
3,484,489	16,729		利息	11. 2
△ 7,765,511	11,250,000		会社より片船買取	11. 8
△ 6,981,305		784,206	28年度純船徳	12.31
△ 2,500,961		4,480,344	28年度償却費	12.31
11,064,721		13,565,682	29年度船徳	昭29.12.31
6,821,789	4,242,932		修繕料	12.31
5,476,979	1,344,810		利息	12.31
476,979	5,000,000		借入金返済（静銀）	12.31

「第8福一丸船中持歩預り金通帳」（近藤三吉氏蔵）より作成。

Hosei University Repository

海遠洋漁業株式会社の後身(八)と船中とで、造船費六〇〇万円を半額宛出資した。第8福一丸の船中持歩預り金通帳（第7表）によると、船中出資分三〇〇万円の調達に船元は苦慮し自己資金と釣払いによって負債を補った。第二次大戦後は燃油等の操業資材不足による現金取引の必要から、各漁船は漁獲物の闇売りに走らざるを得ず、その結果帳簿上の水揚高から算出される船徳金も低く計上された。このため帳簿上（第7表）は赤字経営が続くが、船中にとっては実質上経営不安はなかったものの、共有船経営の利益が薄れたとみた昭和漁業株式会社から共有船方式の解消と船中への漁船売却の希望が出された(九)。第8福一丸は船元の資金操りと釣払いによって昭和二八年に会社から買取られたが、こうした船中側の資金操作の経過を通じて、船元は第8福一丸に対する経営権に加えて所有権を掌握していったのであった。

注

（一）「連名表　南番船中」近藤三吉氏蔵。
（二）前　掲（一）。
（三）「金銭出入帳」明治四三年　近藤三吉氏蔵。
（四）「第二福一丸　船員金銭出入帳」大正一〇年　近藤三吉氏蔵。
（五）「第壱号福一丸　株主人名簿」大正一三年　近藤三吉氏蔵。
（六）「第三福一丸　株主人名簿」昭和四年　近藤三吉氏蔵。
（七）「第五福一丸　株主名簿」昭和八年　近藤三吉氏蔵。
（八）拙　稿「大戦後における焼津鰹漁業経営体の変容と昭和漁業株式会社」人文学会紀要　第二二号　平成元年　一〇三～一一九頁。
（九）前　掲（八）。

四　結

最後に福一丸船中にみる鰹漁船建造資金調達法の推移について要約しよう。動力化以前の明治三七年の太神丸建

Hosei University Repository

造に際しての資金調達は船中一同の出資によったが、船元の比重は大きかった。また船中船方側においても小船（冬漁の漁船）である久七丸の船主清水家の位置も重要で、船中の形成過程を考える一つの手がかりを与えてくれる。(一) 明治四一年に最初の動力船福一丸を建造するが造船費は太神丸の一〇倍以上に膨張し、船中外部の出資法人東海遠洋漁業株式会社から造船費の半額の出資をみた。焼津では以後昭和三〇年ごろまで、船中と外部資本とで造船費を半額宛出資するいわゆる共有船体制が基本的な造船資金調達方法となった。

この間新船建造費の船中負担分は、稼動船の償却金と利益金の積立金を順次回転してまかなわれた。だが昭和期に入って建造された第3・第5・第8福一丸の場合、造船当初は造船費の船中分担金が直ちに完済できず、いわゆる釣払い制をとってある期間の負債を信用でカバーしている。この信用は船中にとって共有船方式の一つの効用で、漁船の帳簿名儀を出資法人である東海遠洋漁業株式会社にすることによって、漁船所有権の所在の如何にかかわらずに漁船を自由に利用できた。これはかつて西九州の底引網漁業において、商業資本と阿波系漁業者との間にあった関係と同義のものであっただろう。(二)

また船中では船元と船方による共同出資のなかで、名儀上はともかく「持歩勘定書帳」によると実質上はしだいに船元の出資比重が増加していった。特に最後の共有船第8福一丸の船中負担金は、ほとんど船元による調達であった。そして共有船方式の解消となる、船中による昭和漁業株式会社持歩の買収費の調達に際しても船元の役割が大きかったことから、船元個人の船主権が実質上確立していった。かくて共同出資による漁船共有関係という船中を構成する基盤の一つが失なわれ、焼津の漁業は近世から続く船中の解体と産業資本家のとしての船元登場という新たな局面をむかえることになった。

注

（一）拙　稿「静岡県焼津における鰹漁業の出資漁撈組織と同族」法政大学教養部紀要　第六七号　社会科学編　昭和六三年　二五～四四頁。

（二）拙　稿「生成期の長崎機船底引網漁業」法政大学教養部紀要　第二〇号　社会科学編　昭和四九年　二五～四四頁。